



2022年11月4日  
 聖心女子学院初等科  
 校長 大山 江理子  
 11月号

## 神様はどのような方？ 教えや宗教の授業で学ぶこと

校長 Sr. 大山 江理子

秋の深まりを感じる日々となりました。正門に向かうイチョウ並木も色づき始めています。初等科では、6月のみこころの祝日にウクライナの人々に向けた絵手紙を書き、ポーランドの聖心に託して送りました。画像は、この5日に計画されている絵手紙を渡すイベント開催のためのポスターです。ポーランドの聖心のシスターが送って下さいました。どのような会になるのか楽しみです。

お子さんにとって神様はどのような存在でしょうか。1年生から教えを学び、毎日朝礼や帰りの会、お弁当の時などにお祈りをし、四季折々に宗教行事も行っています。聖心の子どもたちにとって、神様は身近な存在と感じられているのでしょうか。

神様は目に見えない存在です。年齢に応じて理解の仕方も変化します。ファーストステージの子どもたちは初めて学ぶ神様やイエスの話を素直な心で、好奇心をもって受け取りますが、学年が上がり、様々な事を学び、視野が広がって、世の中の大人の現実も目にするようになってくると、教えや宗教の授業で学ぶことについても疑問をもったり、批判的な目をもって見たりするようになります。なぜ神様の教えの通りに人間は生きていないのか、なぜ祈ったことがかなわないのか、なぜ世界には多くの苦しみや悲しみがあるのか、答えのない問いにも直面するようになっていきます。

学校での宗教教育は子どもたちに心の世界、魂の世界に向かう目を開かせ、各自が豊かな内面性をもって生きていく力を育むことを目指すものです。子どもたちの理解が心の動きと繋がって、いきいきと生活していくことを目指します。疑問や問いをもつことは大事なことです。考えることによって、ものごとの関連性の中で神様を理解し、心で一層深く実感することができるようになります。そして、学校での祈りや行事の体験は、魂、知性、実行力を総合的に働かせる場として心で感じる力を豊かにし、神様という目に見えない存在を感じ取る感性を磨いていきます。答えのない問いを神様と共に考える姿勢も育っていきます。

日本の社会では今、宗教との関わり方が問われています。宗教は人の生き方に深く関わるものです。社会には様々な問題があり、問題の解決には様々な方法があります。物質的支援、経済的支援、医療的支援、法的支援、教育的支援、心のケア等々、人間としてできること、すべきことは多々あります。その中で宗教は、目に見えない世界に関わる独自の役割をもったものです。役割を混同すると、矛盾やひずみが生じます。宗教リテラシーという言葉が聞かれるようになってきました。これは宗教について正しく知り、正しく関わる姿勢を築くことと理解されます。聖心での教えや宗教の授業では、神様について知り、考え、問いを大切に深め、心で感じ、本当に大事なことやほんものを感じ取り、見極める力をつけることを目指したいと考えています。



## 子どもを導く言葉

生活指導主任 橋本 太治

後期が始まり約一ヶ月が経ちます。子ども達は前期の生活と学習の様子をふり返りました。子ども自身のふり返りと共に、保護者の方や先生ともふり返りを共有し、子どもが改めて目的意識をもって後期を過ごせるようにしています。日々過ぎていく時間をなんとなく過ごすこともできてしまいますが、「私はこれを頑張る」という目的意識がある子どもはあらゆる点で行動が変わっていきます。自分自身や友達との向き合い方、持ち物や連絡の管理、授業の受け方、宿題や自主学習の取り組み方など、自分の目標に向かって、日常的にその意識をもてるかが成長のための大きな鍵となります。意識が変われば行動に繋がっていきます。子ども自身が常にその意識をもとうと努力する中で、大人はその意識が持続していけるよう支援することも大切です。この支援において「どのような言葉で導いていくか」ということも、改めて見つめ直していきたいと考えています。

子どもを導くための言葉の選択は、どれだけ子どもの立場や受け止め方を想像するかということに関わります。子どもの立場から考え、褒めて欲しいのか、認めて欲しいのか、そっとしておいて欲しいのか、助けて欲しいのか、子どもが言葉にしない心境や状況を推測していく必要があります。そして、こちらが用意した言葉でしっかりその子が受け止め、より前向きになれるかということが一番大切になります。前提として忘れないでいたいことは、子どもは相手が自分に寄り添ってくれていると感じることで、言葉を受け止めやすくなるということです。大人はより良い方法、合理的な方法を知っていますが、それは経験による積み重ねとふり返りからくる部分が多いものです。子どもはその経験からの学びが少ないだけ、大人から示される言葉やより良い方法を受け止められない場合もあります。高学年ほどこの傾向は見られます。その大人と子どもの間にある感覚の違いを踏まえ、子どもの受け止めやすさを考えた言葉を投げかけるか、それでも大人としてひとつの壁となって言葉を投げかけるかを選んでいくことが、子どもの自立のために大人ができる地道で確かな支援なのではないでしょうか。



共感、励まし、褒めるといった言葉は子どもの教育においてありふれた言葉ですが、実際に子どもの思いをしっかり汲み取り共感が伝わる言葉、心から子どもが励まされる言葉というのは簡単に見つけられるものではありません。しかし、その言葉を探し続けることが何より子どもの心に向き合っていることになるのではないのでしょうか。子ども達の自立に向けて、これからも子ども達を見守る立場として「子どもを導く言葉」を模索し続けていくよう努めてまいります。

## 11月の行事予定

1日(火)	初等科入試・家庭学習日	18日(金)	聖フィリピン・デュシェーン祝日
2日(水)	家庭学習日		5年英単語検定(4限)
3日(木)	文化の日		6年進学説明会(6限・親子)
7日(月)	1年・転入・編入生保護者会	21日(月)	聖心会創立記念日
9日(水)	4年社会科見学	22日(火)	第2回学校参観日
16日(水)	聖フィリピン・デュシェーン祝日 行事 2stお祈り会・講演会	23日(水)	勤労感謝の日
17日(木)	1stお祈り会・講演会	27日(日)	待降節第1主日
		29日(月)	6年まとめテスト、泉の会学習会
		30日(火)	作文発表会(3~6年) 6年CW練習 2年都バス営業所見学